

## 令和2年度 数学 科 授業改善推進プラン

### ①現状・観点別分析

- [全学年]「授業アンケート」では、すべての項目において約80%以上の生徒が肯定的である。
- [1学年]「定期考査」において、全体の18%の生徒が平均80点以上である。その一方で全体の13%の生徒が平均30点未満である。「認知能力検査NINO」において、数的能力の偏差値は49.6である(上位評価は全体の34%、下位評価は全体の40%)。また、全体の4%の生徒が小3以下の内容、全体の2%の生徒が小4の内容、全体の21%の生徒が小5・小6の内容に課題が見られた。
- [2学年]「定期考査」において、全体の25%の生徒が平均80点以上である。その一方で全体の16%の生徒が平均30点未満である。「認知能力検査NINO」において、数的能力の偏差値は53.3である(上位評価は全体の44%、下位評価は全体の20%)。また、全体の1%の生徒が小4以下の内容、全体の18%の生徒が小5の内容、全体の10%の生徒が小6の内容、全体の2%の生徒が中1の内容に課題が見られた。
- [3学年]「定期考査」において、全体の25%の生徒が平均80点以上である。その一方で全体の11%の生徒が平均30点未満である。「学力テスト」において、全国平均54.1点に対して、本校平均は55.3点である(80点以上は全体の8%、30点以下は全体の16%)。

### ②課題

- [1学年] 全体的に数的能力が低い傾向が見られる。計算や知識など、半数近くの生徒が、基本的な内容の定着に課題がある。
- [2学年] 応用問題や文章問題など、答えのために何をすればよいのかを考える力に課題がある。
- [3学年] 文章から、内容や聞かれていることを正確に理解したり、解答の根拠を理解したり、考えたりする力に課題がある。

### ③具体的な改善策(「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善)

- 【「基本的な知識」の定着のために】
  - 個々の学力を丁寧に把握して、まず中学校の計算をきちんと定着させる。そのために、反復演習を多く取り入れ、知識の定着を図る。
  - 習熟度別の授業の利点を生かし、個々の学力に適した授業を展開していく。基礎クラスでは反復演習を多く取り入れ、知識の定着を図り、発展クラスでは思考力を伸ばす課題に触れる機会を増やしていく。
- 【「根拠を理解し、考える力」の育成のために】
  - 「なぜ式をこのように変形する必要があるのか」、「なぜ文字式が必要なのか」など、解き方の根拠に着目して、生徒が相互に説明し合うグループワークを取り入れるなど、理解の充実を図る学習活動に取り組む。
  - 習熟度別の授業の利点を生かし、知識の定着の早い生徒には積極的に応用的な内容に触れさせる。
- 【「主体的・対話的で深い学び」の実践のために】
  - 問題演習のときは生徒同士が教え合う活動、全体で考える内容のときは生徒の考えをもとに展開する授業などをしていく。

